

会員建築作品紹介

「アソカ幼稚園」 横須賀支部 (有)雄設計室 大嶋 和人

1932年に創立された宗教法人西教寺アソカ幼稚園は、2009年に新しい世代に向けて建替えを計画することになった。



スタディを進めていくと幼稚園の設置基準を満たすために必要な運動場の面積が平地の露天で確保するのは難しいという結論に至った。そこで園舎の屋上やテラス、バルコニーやピロティも運動場(設置基準で許される範囲で)として検討を重ねた。もちろん教室や遊戯室にも最低面積が定められており、建物と運動場の面積や形状のバランスを検討することになった。この結果、至ってシンプルな形状の建物でありながら内部と外部が入り混じった構成を持つ建物ができあがった。例えば1階で上履きに履き替え、2階に行くときまずバルコニー(運動場)に出る。そこは風が吹き、雨粒や雪に直接触れたり日向ぼっこが出来る。そこから教室に入る。いろんなところから出入りができることで内外にとらわれずアクティビティの可能性が増えた。

建物概要

所在地：横浜市中区小港町
用途：幼稚園+住宅
規模：鉄筋コンクリート造4階建
敷地面積：554.43㎡
建築面積：254.33㎡
延床面積：814.00㎡
設計監理：雄設計室+里木アルファデザイン
施工：松井建設株式会社東京支店



アクティビティを高めるしかけ

先生や子ども達のアクティビティを支える空間として均質的なハコではなく変化に富んだ空間を用意した



[色に変化を付ける]

仕上げは白を基調としながらも、床や壁、天井や建具に、アクセントとして赤や青、緑や黄色などの色を付けることで楽しさを持つ。

[天井の形状や高さに変化を持たせる]

どこまでもフラットな天井ではなく、部分的に凹凸をつけることで、草原の中にある大木の様な、森の中にある陽だまりの様な、全体の中でちょっと違った空気をもつ居場所になる。



[いろいろな曲線曲面を使うディテール]

下駄箱はただの四角い箱ではなく緩やかなカーブで造られ、園庭にある砂場は敷地の形状に合わせて流線型をし、エントランスのゲートはアーチ型をして柔らかさを出している。安全のためにも出隅にはR加工をしているがコンクリートや木だけでなく外壁のタイルも1つ1つ角をRに丸めている。水平垂直のなかにも曲線を用いることで柔らかな印象を与える。



[手に触れるところの材質]

床には無垢のフローリングを貼った。木の質感は触る事で感じる温かみがある。遊戯室にはウォールナット、教室にはカバ、腰壁にはシナを使い、家具にはパインを使った。また柵はタモを使い、デッキ材は人工木材を使っている。塗装もウレタンやステイン、素地など多種多様な素材を用いた。塩ビシートもツルツルやザラザラとテクスチャーに変化をもたしている。とにかくいろいろ触っていろいろ感じてもらうことが良い刺激になると考えた。



[家具や遊具を設ける]

ロッカーや壁掛け収納は可動にし、教室内のレイアウトを変えることができるようにした。またロッカーの背板は一部開口が設けられ、窓に面して配置した場合ロッカー越しに外を見ることができるようにした。遊戯室には格子状のパイプを組み遊具を引っ掛けられるようにした。多種多様な遊具を用意することで遊ぶ子ども達はもちろん、先生達も動きの違う遊具をどのように配置してどのように遊ぶことができるか考え、一緒になって学ぶ。

